

はやほや

Fukui Red Cross Hospital

福井赤十字病院広報誌

vol.033



初期臨床研修医らの技術向上を目的とした 福井赤十字病院内視鏡トレーニング アカデミー(FRESTA)が開塾しました

平成22年11月9日、内視鏡(腹腔鏡)外科手術に対する初期・後期臨床研修医などの若手医師の手術手技の向上とスタッフ教育を目的とした「福井赤十字病院内視鏡トレーニングアカデミー(FRESTA)」が開塾しました。

内視鏡手術は年々増加しており、福井赤十字病院でも「がん」に対し高度な内視鏡手術が行なわれています。

内視鏡・開腹手術などの外科の手術は安全性と根治(完治)性が損なわれてはならぬいため、内視鏡手術に対する知識やトレーニングが不可欠です。指導には、当院の日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器外科・泌尿器科)、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医、日本胸部外科学会指導医(呼吸器外科)の認定を受けた指導医が当たります。

多くの患者さんに、より一層レベルの高い適切な医療を提供するため、技術の向上につとめてまいります。

福井赤十字病院

理 念

人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針

- 患者様の権利と意思を尊重し、相互理解に基づく医療を行います。
- 患者様に優しい医療を提供します。
- 医療の安全と質の向上に努めます。
- 地域の保健・福祉・医療機関と連携を進めます。
- 救急医療を充実させ、地域の急性期医療を担います。
- 災害時に積極的な医療救護や救援活動を行います。



生活の質(QOL)向上を目指した、専門支援チームによる緩和ケア

「緩和ケア」という言葉からどのようなイメージがありますか。終末期、ターミナル、看取りそんなイメージはあって「私はもう終わりなんだ…」と思つたりしてはいませんか?これらはすべて誤解です。

緩和ケアとは、身体的な痛みだけでなく精神的苦痛(気持の辛さ)、社会的苦痛などすべての苦痛(全人的苦痛ともいいます)を少しでも和らげるお手伝いをするものです。緩和ケアはがんの終末期ではなく、がんと診断されたときから病気の時期や状態とは関係なく受けることができるのです。

世界保健機構(WHO)の緩和ケアの定義(2002年)では、「生命を脅かす疾患に伴う問題に直面する患者と家族に対し、疼痛や身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期から正確にアセスメントし解決することにより、苦痛の予防と軽減を図り、生活の質(QOL)を向上させるためのアプローチである。」とされています。

●緩和ケアチームによる対応

- 緩和ケア病棟(ホスピス)
- 自宅での訪問診療や訪問看護などの在宅医療

いいかえれば、がん治療の目的は治癒、あるいは治癒が困難であれば予後の延長とQOLの向上ですが、緩和ケアの目標はQOLの向上であり、予後に良い影響を与えることになります。すなわち、がん治療と緩和ケアの目標は一致していくお互いに補い合つということになります。

では、実際の緩和ケアはどうやって受けられることが出来るのでしょうか。その方法は大きくわけて3通りあります。

主たる治療法は、がんの場合はがんの終末期ではなく、がんと診断されたときから病気の時期や状態とは関係なく受けることができるのです。

そのため、緩和ケアチームにはいろいろな専門知識を持つた多職種のメンバーで構成され、対応しています(次ページ参照)。

また下記のグラフからもわかる通り、年々、緩和ケアチームへの依頼が増えてきていて、依頼内容も痛みのコントロールから、心のケア(時にはご家族も含めて)、退院や転院などのサポートなど多岐にわたっています。

緩和ケアチームへの来院件数の推移



ここでは当院での緩和ケアチームによる対応について紹介します。

緩和ケアチームは入院治療中に起る様々な苦痛に対して支援するチームで、特別な病棟として存在はありません。主に主治医からの依頼を受け、病室に伺つて患者さんの訴えを聞いたり診察をしたりして、主治医を含めたチーム内で議論(カンファレンス)を行い、個々の患者さんに合った最善の治療を選択して実践していくというものです。



3

看護師

- ◎がん性疼痛看護認定看護師
- ◎がん化学療法看護認定看護師
- ◎緩和ケア担当病棟・チーム看護師

1

身体の症状を担当する医師

- ◎外科医 ◎呼吸器外科医
- ◎麻酔科医 ◎放射線治療医



4

その他

- ◎薬剤師
- ◎放射線技師

2

精神的苦痛(気持の辛さ)を担当するスタッフ

- ◎ストレス心療科の医師
- ◎臨床心理士

また、当院では自宅で療養されているがん患者さんに早期から切れ目ない緩和ケアを提供するため毎週水曜日の午前（予約制）に緩和ケア外来も開設しています。心や体のつらさが強い方は、現在受診中の科と緩和ケア外来をあわせて受診することができます。受診を希望される場合は、主治医や外来看護師にご相談ください。

入院している患者さんにはこの緩和ケアチームが中心となってサポートしていますが、いつでもどこでも切れ目のない緩和ケアが受けられるには、がん治療にかかるすべての医師が、緩和ケアに関する基本的な知識と技術を持つことが必要です。そのため厚生労働省は、がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画において、「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得すること」を目標としました、これを受けて平成20年度より日本緩和医療学会は「日本緩和医療学会PEACEプロジェクト」という13時間の研修会を実施しています。当院では現在（平成22年12月末）34名の医師がこの研修会を終了しています。

あきらめていた方へ朗報! 乾癬の新治療法、生物学的製剤



乾癬の“炎症の親玉”に
直接、働きかける、
新しい治療法を紹介します。



皮膚科医師 中川 雄仁

乾癬（かんせん）」という皮膚病をご存じでしょうか？全身のいろいろな場所に、皮膚が赤くなつて盛り上がり、表面に銀白色の“かさぶた”的なものがでて、ポロポロとはがれ落ちます。皮膚症状のほか、関節の痛みや変形、発熱や倦怠感など全身症状が起きることもあります。原因不明の難治性慢性の炎症性皮膚疾患で、国内に10万人以上の患者さんがいるといわれています。アトピーのように有名ではありませんが、生活習慣の変化とともに増加傾向にあります。命にはかかわらないものの見た目を気にして悩む人も多いのですが、この乾癬とう病気の新しい治療法である「生物学的製剤」をご紹介します。

乾癬の治療には、4つの柱があります。外用療法（塗り薬）、光線療法（紫外線）、内服療法（飲み薬）、そして、生物学的製剤です。患者さんの症状や希望、年齢や持病、ライフスタイルなどを考慮しながら、これらを組み合わせて治療しています。4本柱といいましたが、実は日本で

乾癬に対し生物学的製剤が使われるようになったのは、つい昨年の話です。欧米では何年も前から広く使用されていて、これまでの治療薬にはない劇的な効果があります。われわれ皮膚科医も解禁を待ちわびていたわけですが、乾癬患者友の会が4万人にも上る署名を集めて厚生労働省に提出し、ようやく日本でも使えるようになつたという経緯があります。

従来の治療とは異なり、乾癬で用いられる生物学的製剤は、“炎症の親玉”であるTNF α という体内外物質を直接ターゲットにしています。現在のところ2種類の薬があり、1種類は点滴の薬、もう1種類は皮下注射の薬です。どちらかを選んで治療開始することになるのですが、数週間ごとの決められた間隔で使つていく点は同じです。従来の治療が効かなかつた方でも効果が期待できますが、皮膚がきれいになつた場合でも、原則として定期的に継続していく必要があります。また、免疫の働きを抑えることになりますので、

副作用であるさまざま感染症にも注意が必要になってしまいます。ここで、注意点がいくつかあります。まず、乾癬以外の皮膚病には使えません。そして、これまでの治療では十分な効果が得られないなかつた方が対象ですので、基本的にはまず従来の治療から試みることになります。なお、副作用となるべく避けるため、使用前には問診といくつかの検査が必要です。

生物学的製剤には副作用の危険性があり、費用の問題もあります。しかし、これまでの治療では十分な効果がなくあきらめていた患者さんにとって、大きな福音となりうることは間違いません。乾癬の治療でお悩みの方は、一度専門医にご相談されてみてはいかがでしょうか？



2011年 新年のご挨拶



院長 野口 正人

職員間の協働を強化し、 “隙間ない医療”を 展開していきます

新年明けましておめでとうございます。地域の皆様にはご家族お揃いで良き年を迎えたこととお慶び申し上げます。

昨年は新型インフルエンザの猛威が終わらないまま新年を迎え、1月にはハイチ大地震があり、当院も国際救援に看護師を派遣いたしました。また、夏は猛暑で、年末には尖閣諸島沖事件や朝鮮半島のきな臭い報道があり、気の休まらない年であったように思います。今年は年頭に当たり、地域の皆様と共に、大きな災害や事故・事件のない1年となりますよう祈念したいと思います。

さて、国内世情は政権交代、ねじれ国会、不景気、デフレの影響で混沌としていますが、当院は今年も地域の保健、医療、福祉の向上に貢献すべく、職員一丸となつて努力していく所存でございます。

今年は、昨年4月に立てた3ヵ年の病院中期計画を着実に推進していきます。「県内」の地域医療支援病院になる、「県内」のがん診療拠

点病院になる」目標を達成するた

め、地域医療連携の推進、救急医

療の充実、診療機能の更なる向上、

職員の教育・研修による質の向上

が終わらないまま新年を迎え、1月にはハイチ大地震があり、当院も国際救援に看護師を派遣いたしました。また、夏は猛暑で、年末には尖閣諸島沖事件や朝鮮半島のきな臭い報道があり、気の休まらない年であったように思います。今年は年頭に当たり、地域の皆様と共に、大きな災害や事故・事件のない1年となりますよう祈念したいと思います。

日本は超高齢化社会を迎え、病院では昨年来、入院患者が増加し忙しい日々が続いていますが、安全安心・納得の医療を提供できるよう診療体制を更に整備していくま

す。そして、医師・看護師・薬剤師、各種の技師・管理栄養士・事務職など各職種の職員が協働して、患者中心の医療を「隙間なく」展開していきたいと考えています。

最後になりましたが、今年一年、近隣の皆様には多少のご迷惑をおかけする事と思いますが、ご理解とご協力をお願い致します。

地域の皆様が健康で幸多い生活を送られますよう祈念して、年頭のご挨拶と致します。

十字社医学会総会」を福井市で開催します。学会のメインテーマを「健

康長寿日本の中での赤十字の明日

を育てる」、サブテーマを当院の地域

医療連携のスローガンである「結ぶ

きずな、地域と共に」として、全国

の赤十字の医療人が一堂に会し、病

院活動や機能について考え、研鑽を

積みます。ご支援願います。



Topics



患者さんの心を癒す 多彩なイベントを行いました

福井赤十字病院では外来・入院患者さんへの励ましの意を込め、昨年12月にさまざまなイベントを行いました。

仁愛女子高等学校によるクリスマスコンサート、職員によるキャンドルサービスが行われ、キャンドルサービスでは職員が1本ずつろうそくを持って、当時、福井赤十字病院に入院しておりました庭木俊雄さん作詞作曲の「神よ 人々を苦より救ひたまへ」などをはじめ、「きよしこの夜」や「諸人こそりて」などを歌いながら各病棟を周りました。

病棟では入院患者さんと看護師がいつしょにクリスマスリースの製作を行ったり、看護師らが手作りのクリスマスモチーフにした栞を入院患者さんに手渡していました。



キャンドルサービスでは聖なる夜に清らかな声が響き渡りました



患者さんに看護師手作りの栞をプレゼント



患者さんと一緒にクリスマスリースを製作

栄養課
おすすめ!

冬のレシピ (ブリ大根)

①大根は皮をむいて2cmほどの厚さに輪切りにし、角をとつておく。②ブリの切り身はかるく熱湯にくぐらせて(流しかけてもOK)から冷水でさっと洗う。③鍋に水をはり大根を入れ、串が少し刺さるくらいまで煮る。④その上にブリを入れて、砂糖・醤油・みりん・酒(昆布だし or 人工だし)を入れ、落としづたをして煮込む。(汁はブリが漫る程度を目安に)⑤汁が少なくなってきたらオタマで汁をすくいかけながら煮たら出来上がり。しばらく冷まして、もう一度温め直すと味がしみておいしくなります。

※お好みでゆずの皮や三つ葉等を添えると見た目がきれいになります。

ブリはDHA(ドコサヘキサエン酸)とEPA(エイコサペンタエン酸)が多く含まれており、これらの脂肪酸は学習・記憶能力の向上に加え、動脈硬化・心筋梗塞・脳梗塞など生活習慣病の予防効果があると言われています。また、糖質や脂肪の代謝を促進するビタミンB1・B2、歯や骨の素となり骨粗鬆症を防ぐカルシウムの吸収を促すビタミンDも豊富です。



材料(4人分)／
ブリ切り身: 4切れ(70g
／切れ程度)、大根 1/2
本、醤油大さじ3、砂糖大
さじ1、みりん 1/4カップ、
酒 1/4カップ

●1人分

エネルギー……220kcal
タンパク質……16.2g
脂肪……………12.4g
塩分……………1.6g
ビタミンB1……0.19mg
ビタミンB2 ……0.28mg
ビタミンD……5.6μg
鉄……………1.3mg

平成22年優良職員表彰式が開催されました

平成22年優良職員表彰式が、平成22年12月28日(火)に行われました。

表彰式では、福井市自衛消防隊消防操法競技大会、中部ブロック赤十字スポーツ大会、福井県医師会バレーボール大会などで優秀な成績をおさめた職員に、野口正人院長から賞状が授与されました。

表彰を受けた職員は来年も頑張ろうという意欲に燃えていました。



福井赤十字病院

〒918-8501
福井県福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630(代)
FAX.0776-36-4133
E-mail
webmaster@fukui-med.jrc.or.jp
<http://www.fukui-med.jrc.or.jp/>
広報に関するご意見、ご感想をお待ちしています。

ほやはや

“ほやはや”と納得できる情報、できたて“ほやはや”的情報をみなさまに提供していく季刊発行の院内情報誌です。院内の広報委員のスタッフ皆で毎回その季節に合った特集を組み、お役に立てる情報を掲載すべく病院各部門のスタッフそれぞれから原稿を集め誌面を制作しています。